助成事業実施報告書

2023 年　4 月　16 日

助成事業実施報告書

団体名　つばめ地域食堂プロジェクト

代表者・役職名 氏名　河合　純（代表）

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

コロナによる休校・休園によるひとり親等休息、つながり支援事業

2. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可）　300文字程度

1）つながりの家常設化

年間 120 日実施しました。対象はひとり親世帯、学習困難を抱える子ども、その他必要とする親子、若者・ひきこもり当事者でした。内容は、ひとり親の休息と交流、つながりの貧困を解消するための参加・交流支援、ひきこもりの当事者の参加・交流、世代や属性を超えた地域のつながり拠り所を提供することができました。

2）学習支援事業強化

年間 100 日実施しました。いつでも安心して学習できる場の提供。これまでは子どもを対象とした学習支援を就職に結びついていない若者等の学び直し支援事業として拡大し、資格免許を取得するためのきっかけ作りとして支援を実施することができました。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』　300文字程度

結果

1）年間 120 日実施、参加者延べ約 480 名（うち子ども 240 名程度）

2）年間 100 日実施、参加者延べ約 200 名（うち小中高校生 150 名、若者 50 名）

成果

1）日頃、一人で仕事と育児をしている母親などが日々の暮らしの中で、休息する時間がないということがわかった。数時間でも居場所でくつろぎ、子どもを誰かに見てもらうことで余裕が生まれ、安心して子育てができることが成果となった。

2）貧困等によって塾に通えない子ども達がどれだけ、人に教えてもらうことを求めているかを実感することができました。力を発揮できていない若者も自分の興味があること、得意なことから始めようという気持ちになれました。

社会的な変化などの効果

本事業を通して、社会的弱者と言われる居場所が急務であることを継続して発信することが必要と感じました。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など　300文字程度

新型コロナウイルスの影響での休校や休園については、ある一定の落ち着きを見せてきました。そのような課題に加えて、物価高騰など社会的弱者に対する負の影響は大きく、継続的な支援が望まれます。また、そのような立場の人ほど、自ら助けてと言えない傾向があるので、耳を傾け、こちらから寄り添う必要があると感じています。今後はそのような積極的な関わりを軸に活動していくことが課題として挙げられます。

また、若者支援においては、学び直しの要素は非常に重要であり、公立夜間中学設置に向けた動きの中で不登校やひきこもりを経験した人々がその対象に入り、学びたい気持ちが実現していく社会になると良いと思います。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください